

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)の被害防止について

農林水産省 消費・安全局 植物防疫課

令和7年6月



農林水産省

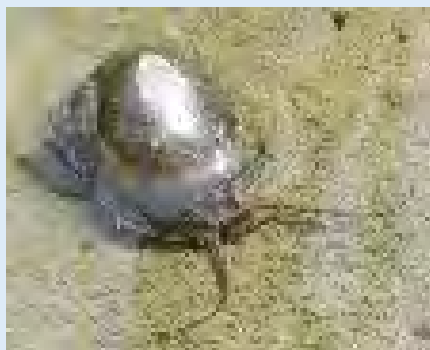
目 次

- 1 ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)の生態と被害について
- 2 ジャンボタニシの被害防止対策について
- 3 ジャンボタニシによる被害の撲滅に向けて

1 ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)の生態と被害について

- (1) ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)の生態
- (2) 水田における被害
- (3) 暖冬による影響

(1) ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)の生態



ジャンボタニシの成貝



食害を受けた水田



水田内の卵塊



水路(水口)の卵塊

【来歴】

- 南米原産。
- 1981年に食用の目的で台湾から導入、全国で500ヶ所もの養殖場ができたが、養殖業者の廃業等によって放置され、水路や水田で野生化。

【食性】

- 雑食性。主として植物質を食べるが、魚の死体なども食べる。
- 稲は3～4葉期までが食害されやすいが、5葉期になるとほとんど食害されない。

【越冬】

- 摂食活動は水温15～35℃で行い、14℃以下で活動を停止し、休眠(越冬)する。
- 水田や用排水路で土中に潜って越冬し、越冬個体は約8割が深さ6cm以内に分布。
- 寒さに弱く、越冬率は高くないが、暖冬の年は越冬率が高くなる。(実験では、0℃で20～25日、-3℃で3日、-6℃で24時間以内に死亡。)

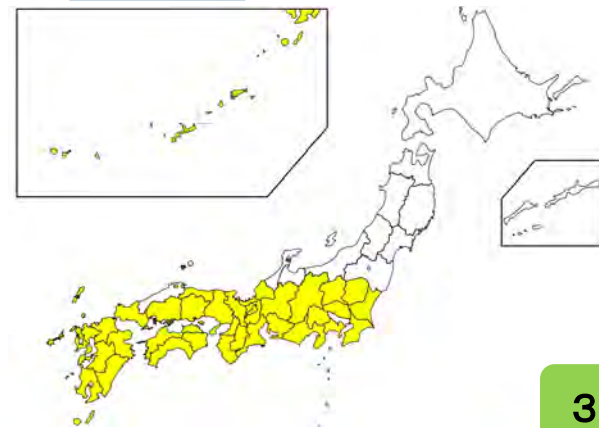
【国内の分布(令和4年)】

発生が確認された都道府県

(発生:35府県)



(未発生:12都道県)



(参考) 水田内の被害を受けやすい場所

- 取水口・排水口の付近や周縁部(畦際付近)は、深くなりやすく、被害を受けやすい
- 均平化できていない凸凹の水田は、浅水管理が困難で、水深が深くなる場所に貝が集まり、被害を受けやすい



取水口・排水口付近



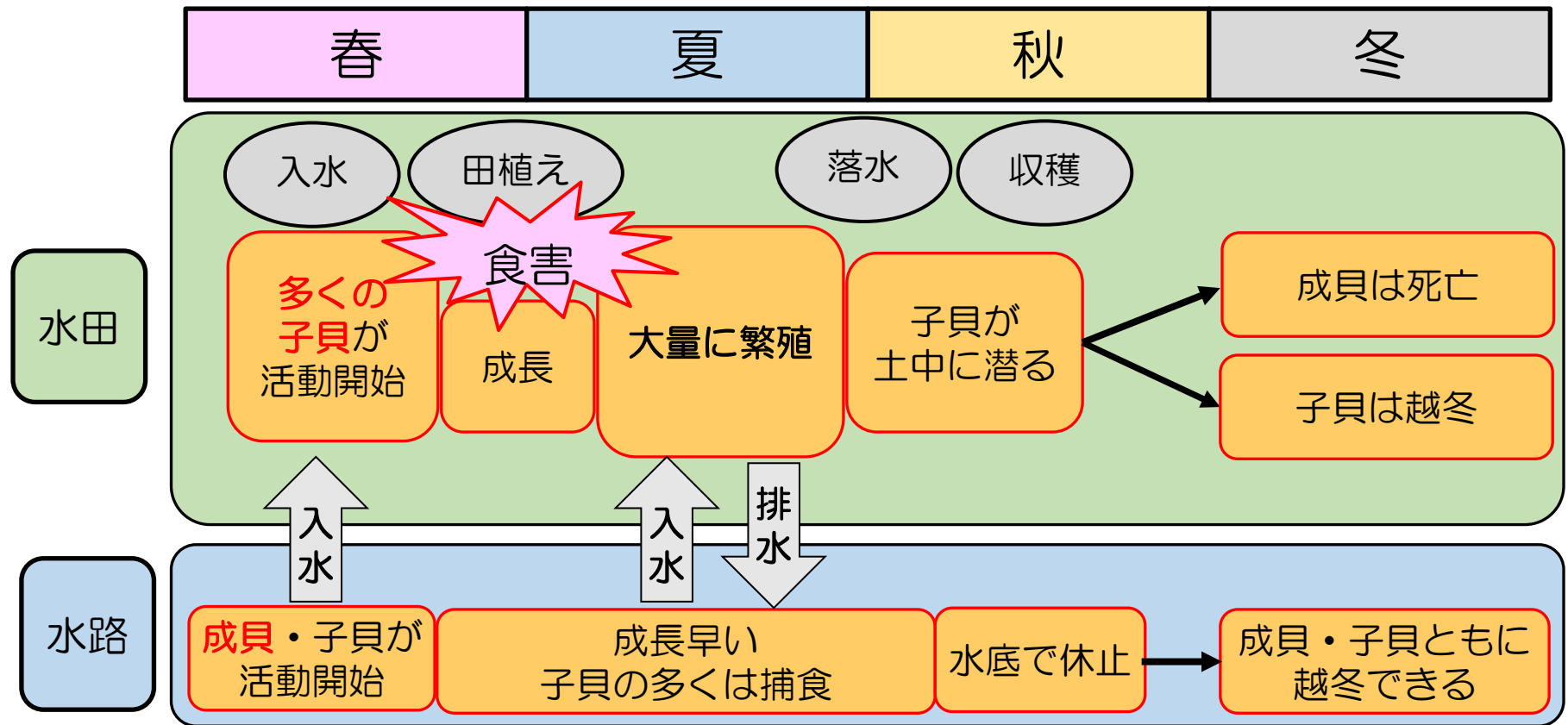
周縁部(畦際付近)



凸凹の水田

(2) 水田における被害

- ジャンボタニシは、水田や水路で越冬し、田植え（移植）直後の軟らかい水稻苗を食害

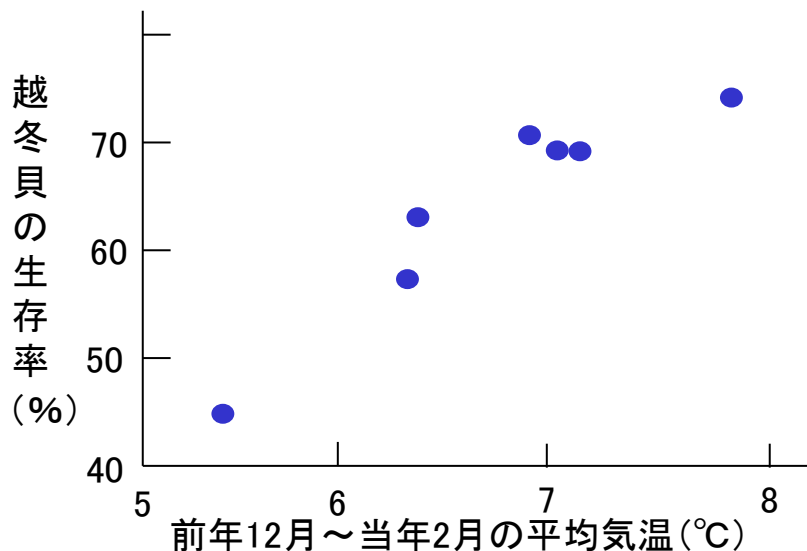


- ジャンボタニシの被害防止対策は、水田内の越冬個体を減らし、水路から水田への侵入を防止する必要

(3) 暖冬による影響

- 暖冬の影響により、水田内で越冬できるジャンボタニシの生存率が増加
- 2019～2020年の冬期(前年12月～当年2月)は、2年連続して全国的な暖冬
水田内や水路等で、多くの個体・大きな貝が越冬したと推測
→ 多くの発生地域や新たな地域で、
移植直後の水稻苗に甚大な被害が発生

佐賀県での越冬調査の結果(1995～2001年)



菖蒲ら(2001)を改変

主な発生地域における冬期(12月～2月)の平均気温(°C)

	千葉県 横芝光町	愛知県 蒲都市	京都府 京都市
2010年12月～2011年2月	6.2	6.4	5.5
2011年12月～2012年2月	4.6	5.5	4.9
2012年12月～2013年2月	4.8	5.2	4.6
2013年12月～2014年2月	5.6	6.1	5.3
2014年12月～2015年2月	5.7	5.9	5.3
2015年12月～2016年2月	6.9	7.7	7.0
2016年12月～2017年2月	6.6	6.7	6.0
2017年12月～2018年2月	5.1	5.3	4.6
2018年12月～2019年2月	6.4	7.3	6.7
2019年12月～2020年2月	7.6	8.3	7.6

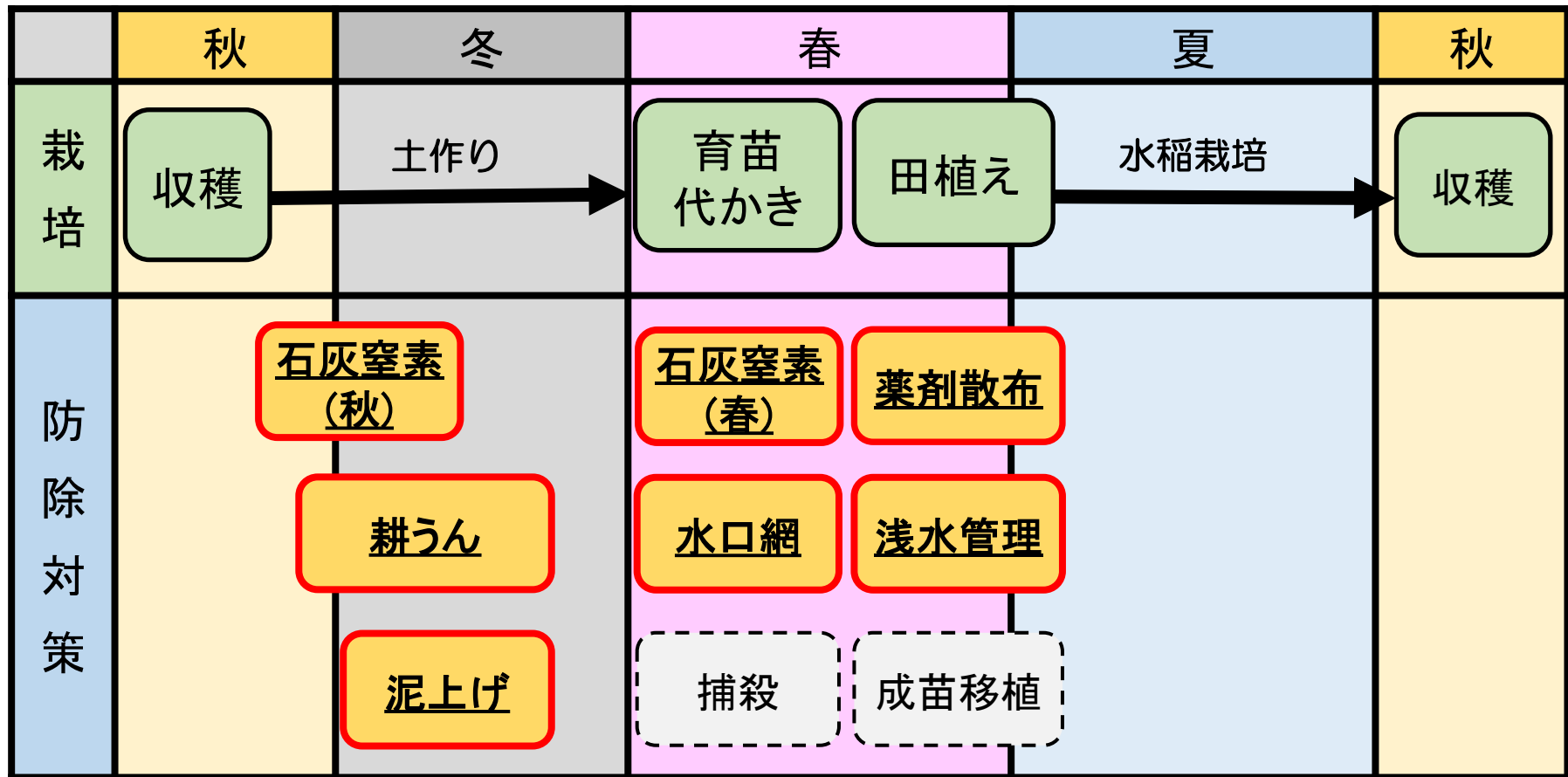
(引用データ: 気象庁HP)

2 ジャンボタニシの被害防止対策について

- (1) 被害防止のための基本的な防除暦
- (2) 効果が高い被害防止対策
- (3) その他の被害防止対策

(1) 被害防止のための基本的な防除暦

○ 各栽培段階に応じ、効果的な被害防止対策が存在



その他に、「田畑輪換(一年ずつ交互に実施)」も有効

(2) 効果が高い被害防止対策

① 秋期(収穫後)の石灰窒素

- 殺貝効果のある石灰窒素を散布
- 水田内の発生が多い場合に実施

いつ・どのように

- 水温が17℃以上の時期に、3～4日間湛水を保った後、石灰窒素を散布。



留 意 事 項

- 魚毒性が高いため、田面水は水路に流さず自然落水させる。
- 窒素成分を多く含むため、次作の施肥量を減らす調整が必要。

(2) 効果が高い被害防止対策

② 冬期の耕うん

- トラクターにより物理的な破砕を行うとともに、厳寒期の寒風にさらすことにより殺貝、越冬個体を減少させる
- 水田内に発生している場合に必ず実施



いつ・どのように

- 土壌が乾燥して固い厳寒期(1～2月)に、トラクターの走行速度を遅く、PTO回転を速く(ロータリーの回転を速く)し、土壌を細かく砕くように耕うん。
- 大半の貝は、地面から深さ6cm以内で越冬することから、耕うんの深さは浅くて良い。



留意事項

- 未発生ほ場への貝の持ち込みを防止するため、使用後のトラクターに付着した泥を洗浄。

(2) 効果が高い被害防止対策

③ 冬期の水路の泥上げ

- 越冬場所をなくし、越冬個体を寒風にさらすため、水路の泥上げを地域全体で実施
- 水田に入水する水路内の発生量が多い場合に実施



いつ・どのように

- 殺貝効果が高まる厳寒期(1～2月)に実施。
- 地域全体で実施するとより効果的。



留意事項

- 掘り上げた水路の泥は、未発生ほ場に持ち込まない。

(2) 効果が高い被害防止対策

④ 春期(田植え前)の石灰窒素

- 殺貝効果のある石灰窒素を散布
- 水田内の発生が多い場合に実施

いつ・どのように

- 水温が17℃以上の時期に、3～4日間湛水を保った後、石灰窒素を散布。
- 石灰窒素散布後、3～4日湛水を保ち、貝を致死。
- 代かき後、2～3日以上おいて田植えを行う。



留 意 事 項

- 魚毒性が高いため、漏水防止対策を行うとともに、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
- 窒素成分を多く含むため、元施の量を減らす調整が必要。
- 一部の石灰窒素は、荒起こし後に全面散布してから湛水する使用方法がある(詳細は、最新の登録内容を確認)。

(2) 効果が高い被害防止対策

⑤ 水口網の設置

- 取水口・排水口にネットや金網を設置し、水田内への貝の侵入を防止
- 水路内に発生している場合に実施



いつ・どのように

- 水田内の個体密度を高めないため、取水口・排水口に9mm目合い程度のネットや金網を設置し、水路で越冬した個体（特に1.5mm以上の大型の貝）の侵入を防止。
- 田植え前に入水時から、移植後3週間（食害されにくい5葉期）まで設置。

留意事項

- 網の目は、粗すぎると小さな貝がすり抜け、細かいと枯れ草などのゴミが溜まりやすいことから、9mm目合いが適当。



(参考) 貝の大きさと被害

- 成貝(大きな貝)は、大きな苗でも食害
- 田植え時に水路で大きく育った成貝が侵入すると被害が増大
- 水路から水田への侵入防止が重要

貝サイズ (mm)	イネのサイズ(葉齢)					
	発芽 直後	1	2	3	4	5
孵化貝	○	×	×	×	×	×
5.0	○	×	×	×	×	×
7.5	○	△	×	×	×	×
10.0	○	○	△	×	×	×
12.5	○	○	○	△	×	×
15.0	○	○	○	○	×	×
20.0	○	○	○	○	△	×
25.0	○	○	○	○	○	△
27.5	○	○	○	○	○	○

○：食べられる △：一部食べられる ×：食べられない

Wada (2004) を改変



(2) 効果が高い被害防止対策

⑥ 田植え時の薬剤散布

- 田植え時の被害が出る前に効果が高い薬剤を散布し、
殺貝や食害防止を図る
- 水田内に発生している場合に必ず実施



いつ・どのように

- 薬剤の特性を考慮し、田植え時の本貝による被害が出る前に、発生状況に応じて全面散布、貝が集まる深水部分への重点的な散布等を実施。

留意事項

- 薬剤散布後は、止水管理が必要。

(例) **メタアルデヒド粒剤** : 本貝に対する誘引性があり、摂食による殺貝効果がある。

磷酸第二鉄粒剤 : 有機JASでも使用でき使用回数に制限がなく、
摂食による殺貝効果がある。

カルタップ粒剤 : 食害防止効果があり、各種害虫にも効果がある。

(2) 効果が高い被害防止対策

⑦ 田植え後の浅水管理

- 水深を4cm(理想は1cm)以下に維持し、摂食行動を抑制
- 水田内に発生している場合に必ず実施

いつ・どのように



- 水深が浅いと貝の摂食行動が抑制されるため、田植え後約3週間の幼苗期の水深を4cm(理想は1cm)以下に維持。

留意事項

- 水田内を均平に保ち、水深が深くなる場所を減らすことが重要。
- 浅水管理が困難な場合は、薬剤散布との組合せにより被害を防止。

(3) その他の被害防止対策

① 水田内・周辺での殺卵・捕殺

- 田植え・生育初期まで、水田内・水路などで卵塊の除去や貝を捕殺し、稲を直接加害する貝の密度を下げ、被害軽減を図る。
- 田植え・生育初期以降は、貝が侵入した直後の地域などでは、定着や増殖を防止するために有効。
(ただし、既に定着・大量発生している地域での防除効果は低い)。

② 成苗移植

- 稚苗ほど被害を受けやすいため、食害されにくい4葉以上の中苗から成苗を植え付けることにより、被害軽減を図る。

③ 田畑輪換

- 水田を畑地化することにより、水がなくなって土に潜って休眠。
- 1年間畑作することにより、ほとんどの個体が死亡。

3 ジャンボタニシによる被害の撲滅に向けて

(1) 被害防止対策に関する情報提供

(2) まとめ

(1) 被害防止対策に関する情報提供

農林水産省

English こどもページ サイトマップ 文字サイズ

標準 大きく

逆引き事典から探す

組織別から探す

キーワードから探す

Google 提供

検索

会見・報道・広報

政策情報

統計情報

申請・お問い合わせ

農林水産省について

ホーム > 消費・安全 > 病害虫防除に関する情報 > 水稲の病害虫防除 > スクミリングガイ（ジャンボタニシ）の被害防止対策について

スクミリングガイ（ジャンボタニシ）の被害防止対策について



スクミリングガイの成貝（左）、卵塊（右上）、被害を受けた水田（右下）

更新日：令和6年4月23日

担当：消費・安全局植物防疫課国内防除第2班

スクミリングガイ（ジャンボタニシ）は、淡水巻貝の一種で、水稻等を食害します。

令和4年には関東以西の35府県で発生が確認されています。

スクミリングガイとは(PDF：349KB)

地図(PDF：109KB)

ここでは、スクミリングガイの生態や防除対策などを紹介します。

【農林水産省のホームページ】

- ・ 防除対策マニュアル
- ・ 防除対策リーフレット
- ・ 防除対策の解説動画 など

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html>

(1) 被害防止対策に関する情報提供 (防除対策マニュアル・リーフレットの公表)

【防除対策マニュアル】

スクミリンゴガイ防除対策マニュアル (移植水稻)



農林水産省消費・安全局植物防疫課
令和7年

【防除対策リーフレット】

地域ぐるみで取り組みましょう
ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために
【秋冬編】

越冬の影響で全国でのジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の発生が増えています。冬の耕うんや農薬の適切な散布など防除対策を組み合わせ、移植水稻での被害を防ぎましょう。地域ぐるみで取り組み、さらに効果的です。

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）

- 成体の殻長は2〜7cm程度
- 本日は、殻のタニシ側に就いて、殻の上部の長さが短く、殻底と殻縁がほぼ同じです。また、黒い殻とピンク色の殻が特徴です。

田舎（水口）の田舎

被害を受けた水田

- 深水となった部分で被害が生じやすく、食害された場合には、欠株となります。
- 田植え後、約1週間までの柔らかく小さな苗を食害し、特に雑草を移植した場合に被害が大きくなります。
- 本日はは人に有害な衛生害虫（広東血吸虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴシヤ、園芸用などを使用し、糞尿で汚染しないようご注意ください。もし、糞尿で汚染した場合には、石けんを手をよく洗ってください。

●防除対策の詳細は裏面を参照ください。

農林水産省

【秋冬編】ジャンボタニシの防除対策（移植水稻）

秋冬期には、以下の防除対策を実施し、越冬個体数を減らすことが重要です。

○ 秋期の石灰散布（発生量が多い場合に実施）
殺菌効果のある石灰散布を散布。

いつ・どのように
・発生が予測される時期に、3〜4日間水を湛えた後、石灰散布を散布。

留意事項
・毒性が高いため、田圃水は水質に汚染する自然水はふける。
・散布成分を多く含むため、公共の施設を汚染する恐れがある。

○ 冬の耕うん（発生している場合に必ず実施）
物理的な破砕を行うとともに最も厳寒期の寒風にさらす。

いつ・どのように
・土壌が乾燥して固い寒期（1〜2月）に、トラクターの走行速度を遅く、100回転を10〜15回の回転を1回とし、土壌を深く砕くように行う。

留意事項
・未発生は場への負荷の軽減を防止するため、使用後のトラクターに付着した泥を洗浄。

○ 冬の水路の泥上げ（発生量が多い場合に実施）
越冬場所をなくし越冬個体を寒風にさらすため、水路の泥上げを地域全体で行う。

いつ・どのように
・殺菌効果が長い寒期（1〜2月）に実施。

留意事項
・泥上げの際は、水発生は場には持ち込まない。

○ 春期の防除対策として、
田植え前まで：排水口・排水口への網の設置、春期の石灰散布
田植え時から：排水管理、薬剤散布
などを組み合わせて実施しましょう。

農林水産省HPで
公開中！

(1) 被害防止対策に関する情報提供 (防除対策の解説動画)

農林水産省HPで
公開中！



YouTubeで「ジャンボタニシ 被害防止対策 農林水産省」と検索も可能

(2) まとめ

ジャンボタニシが発生している地域やほ場では、被害ゼロを目指して、効果的な被害防止対策を組み合わせ、地域ぐるみで取り組みましょう。